

## 【 間 断 通 水 の 実 施 】

北陸地方は6月20日に梅雨入りしました。高温少雨の状況下では、いもち病の発生が高まります。いちほまれは、いもち病に強い品種ですが、こまめな生育状況の観察と予防剤の散布を心掛けましょう。また、カメムシ被害にも注意が必要です。7月には各地区で防除が行われます。適期防除に努めてください。今後も気温が高く推移することが予想されますので、熱中症対策をして作業を行いましょう。

## 1. JA生育調査状況(7月1日現在)

## ①JA全体(移植)

| 年度 | 移植日<br>(平均) | 草丈<br>(cm) | 茎数<br>(本/㎡) | 葉色  |
|----|-------------|------------|-------------|-----|
| R8 | 5/20        | 53.5       | 582         | 4.2 |
| R7 | 5/18        | 60.1       | 605         | 4.2 |

## 【前年比】

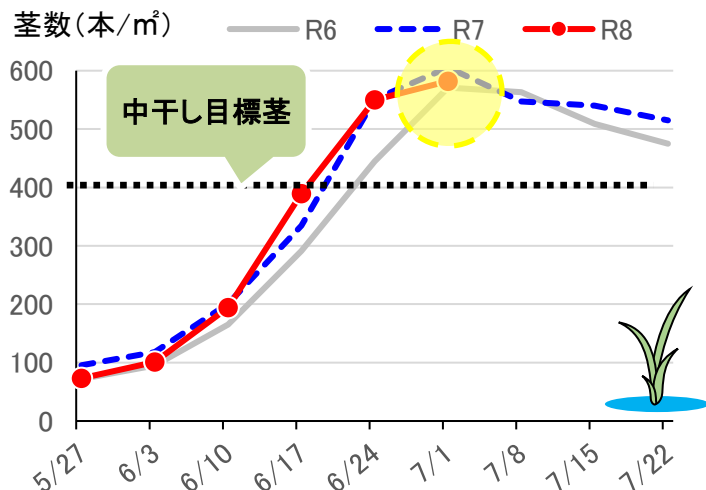
■草丈:短い ■茎数:やや少ない ■葉色:並み

## ② 気象状況:6月25日～7月1日(平年比)

- 平均気温 : 並み(▲0.1℃/日)
- 降水量 : 多雨(127%)
- 日照量 : 並み(▲0.2時間/日)

③ いちほまれの生育状況は、草丈が短いですが、茎数・葉色は順調に推移しています。各地区で中干し時期に入っていますが、乾かし過ぎに注意しながら管理しましょう。

## 2. 茎数の推移について(7月1日現在)



嶺南(高浜町)  
5/14移植

## 3. 今後のいちほまれ栽培のポイント

## ■ 葉色の管理

今週末から来週にかけて、幼穂形成期に入ります。品質・収量を高めるため葉色に注意しましょう。

□ 間断通水で一発肥料の効果を高める。

□ 葉色が4以下の場合は穂肥を散布。  
(窒素1~2kg/10a)

## ①間断通水

## ②穂肥散布

○新工追肥(15・3・10)  
施肥量: 6.5~13kg

7月15日頃

(20日前)

7月25日頃

(10日前)

8月4日頃

【出穂】

## ③畦畔草刈

■ 県下一斉 畦畔草刈り実践デー  
地域ぐるみの草刈りでカメムシの発生や帰化アサガオ類を減らしましょう。

- 7月4日(土)
- 7月5日(日)

ブランド米「いちほまれ」のお問い合わせは、各地区担当営農指導員までお願いします。